

2018年度業種別部会年間報告

1. 関東金属機械部会

1. 部会運営について

今年度の方針は次のとおりである。

- ・多くの会員が積極的に参加できる部会運営を目指す。
- ・有益な知財情報を提供し、会員相互が意見交換できる機会を提供する。

2. 部会活動について

第1回から第5回の部会を開催し、総出席者人数は458名（2017年度423名）、総出席会員企業数は325社（2017年度322社）と、いずれも2017年度より若干増加した。

運営方針に基づき、より有益な知財情報を会員企業の方々に提供できるようにアンケート結果に基づいて、第2回部会では、中国での特許と係争について、企業の知財活動の成功事例を、第5回部会では、経営の目から見た知財活動の在り方に関するテーマでの講演を企画した。特に、「季刊じば」に投稿された浅見理事長のインタビュー記事の「第4次産業革命に適合する人材育成」が目にとまり、IoT、AI時代を踏まえた知的財産戦略方針について講演をお願いした。

一方で、2016年度から会員企業間の交流を目的とし講演前に参加者間の名刺交換を行っていたが、アンケート回答から、面識のない相手との名刺交換に抵抗があるとの意見があり、一旦中止することとした。記録写真も参加者の顔が映らない工夫も始めており、意見交換方法の難しさを感じている。

(1) 第1回部会

丸島特許事務所所長の弁理士丸島儀一氏に、経営戦略に参画する戦略的知財活動について講演いただいた。

最初に知財経営と経営（事業）戦略、知財戦略の説明があり、知財の「本質」（排他権）を認識し、自社の事業（技術・知財）の「弱み」を消し、「強み」を増す「知財戦略」のための具体

的方策の説明があった。企業の知財部員は、各事業部及び全社の技術の位置づけと知的財産の真の「強み」と「弱み」を常時把握すると共にこれらを経営情報として活用することが重要であると解説された。

講師の丸島氏から参加者に向かって、IoT、ビッグデータ、AIが主役の第4次産業革命時代の知財戦略について質問が投げかけられたことがきっかけとなり、急遽参加者からの質問時間を多くとることになった。

その後の懇親会では、講師の丸島氏を囲んで知財戦略についての活発な議論が進んだ。

(2) 第2回部会

日本技術貿易株式会社の弁理士である張華威氏に、中国での知財に関する留意点を分かり易く解説していただいた。

まず、中国専利侵害訴訟の概況についての説明があり、2017年全国専利第一審民事事件新受件数は1.6万件、2016年全国知的財産権訴訟既済件数は7万件であり、対前年比40%増となっていること、北京知的財産法院における涉外訴訟件数において、日本が関係するものが倍増しているとの報告があった。

実用新案権のメリット及び活用方法の説明があった。審査指南には特許より緩く進歩性を判断することが明文化されており、同じ発明内容であれば、実用新案が特許より安定しているとのことである。

続いて「攻め」のエッセンスの説明があった。特に、非侵害の抗弁として先使用権は認められにくいこと、均等も侵害の範囲で、非侵害の公然実施の抗弁に対しても、均等の考えが適用されること、機能クレームは、具体的な実施形態に限定されるとの解説があった。

最後に「守り」のエッセンスの説明があった。中国では出願件数が多く、侵害のリスクが高いため、問題となる可能性のある公開公報を発見した場合は無効化を検討すること、部分無効も

含めた無効化率は特許で約50%、実用新案で約60%とのこと、コア技術だけでなく、周辺技術についても権利を取得する必要があると解説された。

講演後のキリンビール工場見学と懇親会には、講師の張弁理士にも参加いただき、多くの参加者との交流を深めた。

(3) 第3回部会

ナブテスコ株式会社技術本部知的財産部長の菊池修氏と参事弁理士の井上博之氏に、ナブテスコの知財経営戦略におけるIPランドスケープの実践について講演いただいた。

菊池氏は、ナブテスコの知財経営戦略について分かり易く説明された。ナブテスコでは、営業部門、研究開発部門、製造部門等あらゆる部門が「知財」の意識と戦略をもって事業に取り組んでおり、経営者向けだけでなく各部門に対して知財戦略を確実に教育指導し、活動を展開していると説明された。ナブテスコ知財部では、知財戦略のプロ集団として、事業および技術を守り、収益性と企業価値を高めながら会社の未来を創造すべく、活動目標と実行計画を立てているとのことである。

全社一丸となって、企業価値の向上と事業競争力の強化に向けた知財経営戦略を実行してきたことが高く評価され、2018年度知財功労賞（経済産業大臣表彰）を受賞した。各受賞ポイントにつき、詳細にご説明いただいた。

今後の知財活動（提言）として、これからの知財部は、知的財産を戦略的に確保・保護・強化・活用し、事業競争力と企業価値向上に貢献する部門、会社の未来をリードする参謀となるべきであって、単なる「特許部」にとどまるべきではないと解説された。

井上氏は、仮想事例を用いて、IPランドスケープを活用したコア価値強化・獲得の知財戦略立案のエッセンスを丁寧に紹介された。

講演後、京都リサーチパーク内にある京都市産業技術研究所の展示コーナーと製織実験室を見学した。伝統技術と先進技術を融合させ、「ものづくり」において中小企業を支援されていた。

その後、亀岡の旅館「溪山閣」に移動し、講師の菊地氏と井上氏にも懇親会に参加いただき、会員間の親睦を深めることができた。翌日は、大石酒造株式会社の酒蔵を見学し、日本酒以外の化粧品等の新製品に触れることができた。

(4) 第4回部会

IPNJ国際特許事務所の所長の弁理士乾利之氏に、IoT時代の自動車業界が今後進むべき知財業務の方向性に関して講演していただいた。

主に乾氏が特許情報を基にマクロ、Grマクロ、ミクロ調査を行った結果を示しながら、特許の点から自動車業界に提言された。提案では、今後は電気自動車や自動運転にシフトしていくこと、産業構造の変化でエコシステムの変化やサプライヤによる業態変化が起き、サプライヤは対応が迫られること、知財フローはモノからデータ、サービス、仕組みへ変化し、発明創出ポイントは、データが出るポイントへ、研究所から事業部側、社会実装、工場、購買・販売、サービスへと変化すると解説された。

講演会後の懇親会では、乾氏を囲んで親睦、交流を深めることができた。

(5) 第5回部会

富士フイルム株式会社フェローの浅見正弘氏に企業の事業転換と知的財産戦略について講演いただいた。

「知的財産権」の取得は、知財戦略のベースであるが、一般に自社技術に固執し易いと考えられている。IoT、AIの普及で、ビジネスにおける競争の枠組みが大きく変わるので、新たな事業展開には新たな技術資産の獲得を並行して進める必要がある。特に知的財産権について、意識的に獲得していくことが重要となると解説された。今までの、創って（開発）⇒作って（生産）⇒売る（販売）の事業サイクルの要素を転換できるかが重要となる。富士フイルムは、多様なコア技術を保有しており、社内の異分野技術を融合させつつ、新たにそれらを組み合わせることにより、事業転換を進めることが可能であったと解説された。

さらに発明の土壌となる技術的思想を育むた

めのような取り組みこそが知的財産戦略マネジメントであり、以前は、基礎研究からスタートするリニアモデルが主流であったが、スピード感を重視する目的から、潜在市場あるいは目的からスタートする連鎖モデルに変わっていると説明された。

経営戦略は、事業戦略、R&D戦略、知財戦略の三位一体からなり、経営をどの視点から見るかが重要である。変革する中で、新たな知財戦略（オープン&クローズ戦略、標準化戦略、データの権利保護／活用）を策定し、新たなビジネス環境で主導権を握ることが知財部門の目標となると考えられると解説された。

講演会后、浅見氏にも懇親会に参加いただき、講演会で質問できなかった方々が浅見氏と熱心に議論され、親睦、交流を深めることができた。

3. むすび

各部会でのアンケートと幹事会での議論をもとに話題性のあるテーマや見学場所を選定し、多くの会員企業の皆様が参加していただけることを念頭に活動してまいりました。その結果、参加者も昨年より増加させることができました。一方で、会員間の意見交換の場が提供できていないことを懸念しております。

最後になりますが、日本知的財産協会の関係者、会員各位、部会幹事OB、講師の方々、見学施設の方々からの多くのご指導とご協力をいただきました。ここで厚く御礼申し上げます。また、ご多忙の中、部会や幹事会の準備や遂行等に当たっていただいた正副幹事の皆様、幹事を派遣していただいた会員企業各位に心から感謝申し上げます。

関東金属機械部会行事一覧

回	日程・会場	講演テーマ・講師	参加数
第1回	6月22日（金） 全国家電会館 （湯島）	「事業の弱みを消し、強みを増す、知財戦略の要諦～経営（事業）戦略に参画する戦略的知財活動～」 丸島特許事務所 所長 丸島 儀一氏	77社 115名
第2回	8月31日（金） キリンビール 横浜工場	「知財大国たる中国で勝ち抜くための「攻め」と「守り」のエッセンス」 日本技術貿易株式会社 中国弁理士、弁護士、日本弁理士 張 華威氏	64社 91名
第3回	10月26日（金） ～27日（土） 京都市サーチパーク	「ナブテスコの知財経営戦略におけるIPランドスケープの実践 ナブテスコの知財経営戦略（ナブテスコのIPランドスケープの実践内容と事業活用の進め方）」 ナブテスコ株式会社 理事 技術本部 知的財産部長 兼 ナブテスコR&Dセンター長 菊地 修氏 技術本部 知的財産部 参事 弁理士 井上 博之氏	47社 63名
第4回	11月30日（金） Honda青山ビル	「IoT時代の自動車業界～業態・知財業務の変革期～」 IPNJ国際特許事務所 所長 弁理士 乾 利之氏	70社 96名
第5回	2月22日（金） JFEスチール 本社ビル	「企業の事業転換と知的財産戦略—IoT, AI時代の知的財産戦略を考える」 富士フイルム株式会社フェロー 浅見 正弘氏	67社 93名

2. 関東電気機器部会

1. 活動方針

今年度の活動方針は次の通りである。

- ・ 会員相互や講師との交流の場を増やす
- ・ 参加者の人数や幅の拡大を図る
- ・ 会員の要望を反映した運営を行う

2. 部会活動について

部会は年5回開催することとし、当部会固有の活動に加え、関西電気機器部会との交流や異業種との交流も継続実施した。

(1) 第1回部会

今年度の部会活動計画説明後、矢作外国法事務弁護士事務所 外国法事務弁護士 矢作隆行

氏から「米国特許権の侵害行為の様態・米国特許の消尽」と題してご講演頂いた。

講演では、まず米国特許権の侵害行為の様態として、米国特許法271条 (a) (f) (g) の直接侵害及び米国特許法271条 (b) (c) の間接侵害について解説して頂き、どの様な行為が米国特許権の侵害にあたるのかを具体的にご説明頂いた上で、システムクレームと方法クレームのメリット、デメリット、等、クレーム作成における留意点についてアドバイスを頂いた。

また、米国特許の消尽論について解説して頂き、消尽させないクレームの作成手法についてアドバイスを頂いた。

その後、カートリッジ付きのコーヒーサーバを販売するアフターマーケットビジネスを想定した仮想事例を基に、どのような特許クレームにすべきか、消尽しないための方策など、活発なテーブルディスカッションが行われた。

その後の懇親会では講師の矢作氏を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。

(2) 第2回部会

関東・関西合同電気機器部会として、YKKセンターパークを訪問し、YKKグループの技術の歩みや歴史、創業者である吉田忠雄氏の経営理念や思想、等について学んだ。

その後YKK株式会社 知的財産グループ長林隆典氏から「YKK知財活動について」と題して、YKKグループ概要と知財組織、スライドファスナーの技術的特徴、YKKの事業上の特徴と知財活動（一貫生産体制、競合他社、顧客、YKKブランド）及び課題についてご講演頂いた。

講演会終了後、延対寺荘に場所を移動して懇親会を開催し、講演内容を元にした意見交換を行うとともに、会員相互の親睦を深めた。

(3) 第3回部会

異業種との交流として、ANA機体メンテナンスセンターを見学し、ANAグループが使用している飛行機やその整備についてビデオで説明を受けた後、格納庫に移動しボーイング777や787など整備作業中の飛行機を見学しながら

格納庫や飛行機の説明を受けた。

その後場所を品川インターシティに移し、特許庁審査第一部長 澤井智毅氏より「日本のイノベーションに求められるものとは？」と題してご講演頂いた。

講演では、日本企業のイノベーション促進や破壊的テクノロジー導入に対する意識は世界と比べて低いこと、「デザイン経営」によってブランド力とイノベーション力が向上し、ひいては企業の産業競争力が向上すること、我が国企業のイノベーション促進を図るためには、デザイン経営の推進、意匠制度の近代化及び国際化を図ることが必要であり、特許庁として力を入れて取り組んでいること、等についてご説明頂いた。

その後の懇親会では講師の方々を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。

(4) 第4回部会

話題性の高い3テーマを設定し、同時に講演を行う形式で部会を開催した。

テーマ1は「知財担当者が知っておくべき、ブランディングの基本」と題し、Brand. Communication. Design. クリエイティブディレクター／ブランドマネージャー 平野朋子氏よりご講演頂いた。テーマ2は「AIが発明を考える時代へ！」と題し、株式会社ゴールドアイピー（現株式会社AI Samurai）代表取締役社長CEO／特許業務法人 白坂 会長 弁理士 白坂一氏よりご講演頂いた。テーマ3は「フィールドからのイノベーション：発明の質を変革する知財アプローチ」と題し、パロアルト研究所 日本代表 シニアリサーチャー 博士 伊賀聡一郎氏よりご講演頂いた。

講演会終了後、各テーマと合同で懇親会を開催し、講師の方々や会員相互の交流・親睦を深めた。

(5) 第5回部会

今年度の部会活動報告後、「企業における知財価値評価」と題して、IPTech特許業務法人代表弁理士・公認会計士 安高史朗氏にご講演頂いた。

前半では知財価値評価の必要性とその評価方法について、評価業務依頼案件の経験を交えながら具体例を挙げてご説明頂いた。

後半では、仮想事例を用いた知財価値評価についてテーブルディスカッションを行い、活発な議論が行われた。

その後、講師の安高氏を交えた懇親会を行い、会員相互の意見交換、交流及び親睦を大いに深めた。なお、今回の部会は関西電気機器部会の松本役員にもご参加頂き、懇親会にてご挨拶を頂いた。

3. むすび

話題性のあるテーマに関する講演やテーブル

ディスカッションの設定、懇親会開催の工夫などにより、少しでも多くの会員の皆さまに興味を持ってご参加頂けるよう、部会運営に心がけた。

最後に、今年度の部会の企画、運営にあたり、会員各位、講師の方々、施設見学の関係者の方々、日本知的財産協会関係者、等より多大なご支援・ご協力を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。また、業務多忙の中、部会の企画、準備、運営などに積極的に携わって頂いた幹事の皆様、そして幹事を派遣頂いた会員各位に心から感謝申し上げます。

関東電気機器部会行事一覧

部会	開催日・会場	参加数	内 容
第1回 講演	6/21 (木) アルカディア市ヶ谷	57社 63名	講演：米国特許権の侵害行為の態様・米国特許権の消尽と、それを踏まえたクレーム作成 講演者：矢作外国法事務所 米国ニューヨーク州弁護士 矢作 隆行氏
第2回 東西合同	9/7 (金)～8 (土) YKKセンターパーク	64社 75名	工場見学：YKKセンターパーク 講演：YKK知財活動について 講演者：YKK株式会社 知的財産グループ長 林 隆典氏
第3回 異業種 交流	10/5 (金) ANA機体メンテナンスセンター	63社 81名	工場見学：ANA機体メンテナンスセンター 講演：日本のイノベーションに求められるものとは？ 講演者：特許庁 審査第一部長 澤井 智毅氏
第4回 講演	12/5 (水) アルカディア市ヶ谷	70社 97名	テーマ1：知財担当者が知っておくべき、ブランディングの基本 講演者：Brand. Communication. Design. 平野 朋子氏 テーマ2：AIが発明を考える時代へ！ 講演者：株式会社AI Samurai 白坂 一氏 テーマ3：フィールドからのイノベーション：発明の質を変革する知財アプローチ 講演者：パロアルト研究所 日本代表 伊賀 聡一郎氏
第5回 講演	3/8 (金) ソニー本社	65社 80名	講演：企業における知財価値評価 講演者：IPTech特許業務法人 代表弁理士・公認会計士 安高 史朗氏

3. 関東化学第一部会

1. 部会の運営方針

前年度と同じく「人の繋がり」と「知財力UP」をキーワードに、以下のような方針で運営を行った。

①若手からベテランまで多くの会員が参加し

やすく、会員のグローバルかつ広範な知財活動に役立つ部会の企画・運営を図る。

②会員相互の親睦と研鑽を目的として、業種や世代を超え、人的交流の図れる場を提供する。

③会員相互の情報交換や会員が興味あると思われる情報を提供することにより、会員の

知財力UPを図る。

2. 部会活動について（下表参照）

例年通り、5回の部会を開催し、その延べ参加者数は366名であった。また新たな試みとして、講演部会でのテーブルディスカッション（簡易演習）、宿泊部会でのブレインストーミングを実施した。概要は以下の通りである。

（1）第1回部会（講演）

DSA Legal Solutions Professional Corporation代表 カリフォルニア州弁護士・日本弁理士 大平恵美氏から、『米国訴訟に巻き込まれたら？－巻き込まれた際のリスクの低減のために今できること－』という演題で、米国の法制度、特許権侵害訴訟に巻き込まれたら、米国での訴訟の手続き、巻き込まれないためには、についてご講演を頂いた後、「万が一、米国特許権侵害訴訟に巻き込まれる場合に備えて、何らかの準備をしていますか？」のテーマでグループディスカッションを実施した。また、2018年度部会活動計画説明と幹事団からの挨拶を行った。

終了後、講師の大平先生と久慈専務理事にもご出席頂き、参加者34名で意見交換を行うとともに、親睦を深めた。

（2）第2回部会（バス）

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 イノベーション推進本部 知的財産・標準化推進部長 永石哲也氏から、『技術を社会へ～産業技術総合研究所におけるイノベーションの推進と知的財産～』という演題で、産業技術総合研究所の概要、イノベーション推進の取り組み、知的財産の保護・利活用の取組み、標準における企業連携の取組みについてご講演を頂いた。また講演に先立ち、筑波ハム（昼食含む）、産業技術総合研究所 サイエンススクエア・地質標本館を見学した。

終了後、オークラフロンティアホテルのカメリアにて、講師の永石氏を含め、バス部会の参加者と歓談・名刺交換を行い、懇親を深めた。

（3）第3回部会（講演）

三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 室長 弁理士 シニア知的財産アナリ

スト(AIPE認定) 山内明氏より、『IPランドスケープ 知財情報に基づく特許マーケティングの理論概要と実践事例』という演題で、IPランドスケープの定義、知財情報戦略とは、課題解決アプローチとマーケティング、まとめ、についてご講演を頂いた後、IPランドスケープに関する4テーマでグループディスカッションを実施した。

終了後、講師の山内氏にもご出席頂き、参加者44名で意見交換を行うとともに、親睦を深めた。

（4）第4回部会（宿泊）

1日目は13時より、シスメックス株式会社テクノパークの見学を行った。15時よりシスメックス株式会社知的財産本部本部長 井上二三夫氏より、『シスメックスの知的財産活動』の演題で、シスメックス概要および知財活動についてご講演を頂いた。その後宿泊者（30名）は有馬温泉“有馬御苑”に宿泊し親睦を深めた。なお、シスメックスの井上二三夫氏、辻本順一氏にも参加頂いた。懇親会では、参加者全員による名刺交換会を行った。

2日目は知財ブレインストーミング（テーマA：事業に資するための知財部の役割とは、テーマB：知財実務の効率的な運用をするために、我々はどう行動すべきか、の選択制、KJ法による）を実施後、終了後に、希望者選択で、布引水源地見学・布引ハーブ園観光・解散に別れて行動し散会した。

（5）第5回部会（講演）

デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 シニアヴァイスプレジデント 小林誠氏より、『デジタル革命時代の知的財産』の演題で、“ポスト・デジタル革命”時代の知財マネジメント、特許情報活用による新規事業開発、新規用途開発事例について、事業戦略におけるオープン&クローズ、M&Aによる新規ビジネスモデルの構築、知財マネジメントを通じたオープンイノベーションの推進、についてご講演頂いた後、内閣府の知的財産戦略本部で提唱されている『経営デザインシート』を使用

したグループディスカッションを実施した。最後に2018年度部会活動実績報告と退任する役員・正幹事から挨拶を行った。

終了後、講師の小林氏とJIPA伊藤事務局長代行にもご出席頂き、参加者50名で意見交換を行うとともに、親睦を深めた。

(6) 化学関連東西合同幹事会
(2018年9月14日～15日)

今年度は関東化学第二・商社部会が幹事となり、当部会8名、関東化学第二・商社部会9名、関西化学部会4名が参加した。

初日は石油資源開発(株)由利原鉱場を見学した後、同社秋田事業所会議室に移動し部会運営に

ついでの情報交換を行った。その後懇親会を実施して親睦を深め、ルートイングランディア秋田に宿泊した。2日目は各自朝食を取って自由解散した。

3. むすび

今年度部会の企画・運営にあたり、JIPAの関係者、会員各位、部会幹事OBの皆様、講師の方々などから多くのご助言・ご指導・ご協力を賜り、円滑に部会活動を行うことができましたこと、厚く御礼申し上げます。また、多忙の中、精力的に準備等に当たって頂いた正副幹事の皆様、幹事を派遣して頂いた会員各位に心から深く感謝申し上げます。

関東化学第一部会活動概要

部会	日時	参加数	内 容
第1回 (講演)	2018年 6月1日(金)	69社 95名	講師 : DSA Legal Solutions Professional Corporation代表 カリフォルニア州弁護士・日本弁理士 大平 恵美氏 演題 : 米国訴訟に巻き込まれたら? -巻き込まれた際のリスクの低減のために今できること- 会場 : 全国家電会館 懇親会 : 34名参加
第2回 (バス)	2018年 7月6日(金)	27社 31名	見学 : 産業技術総合研究所(つくば), 筑波ハム 講師 : 産業技術総合研究所 イノベーション推進本部 知的財産・標準化推進部長 永石 哲也氏 演題 : 技術を社会へ～産業技術総合研究所におけるイノベーションの推進と知的財産～ 懇親会 : オークラフロンティアホテル
第3回 (講演)	2018年 10月12日(金)	82社 122名	講師 : 株式会社三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 知的財産室 室長 山内 明氏 演題 : IPランドスケープ 知財情報に基づく特許マーケティングの理論 概要と実践事例 会場 : 全国家電会館 懇親会 : 44名参加
第4回 (宿泊)	2018年 11月9日(金) ～10日(土)	32社 45名	見学 : シスメックス株式会社テクノパーク, 布引ハーブ園, 布引水源地 講師 : シスメックス株式会社 知的財産本部長 井上 二三夫氏 演題 : シスメックスの知的財産活動 宿泊・懇親会 : 有馬温泉“有馬御苑”(30名)
第5回 (講演)	2019年 2月15日(金)	52社 73名	講師 : デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 シニアヴァイスプレジデント 小林 誠氏 演題 : デジタル革命時代の知的財産 会場 : 全国家電会館 懇親会 : 50名参加

4. 関東化学第二・商社部会

1. 運営方針

下記方針により本年度の部会を運営した。

(1) 事業貢献に寄与し得る知財活動の推進を図るため、会員の関心が高い価値ある情報を提供する。

(2) 会員相互の円滑なコミュニケーションのために、会員相互の親睦と情報交換の場を提供する。

2. 部会活動

(1) 第1回部会

「紛争事例から考える訴訟にしないための実務上の留意点」と題して、阿部・井窪・片山法律事務所のパートナー弁護士 服部誠氏に、知的財産訴訟を回避するための工夫について、裁判例等実際の紛争事例を交えてご講演頂いた。

(2) 第2回部会

「マーケティングツールとしての知的財産～IPランドスケープから技術のブランド化まで～」と題して、金沢工業大学大学院の教授 Ph.D. 杉光一成氏に、「マーケティング論」の基本セオリーと知財との関連性について確認しつつ、その中でも特に注目されているIPランドスケープと技術のブランド化についてご講演頂いた。

併せて、キリンビール(株)横浜工場の見学を行い、製造装置の実物や映像、展示物を通じて、ビール製造工程についてご説明頂いた。

(3) 第3回部会

講演会と工場見学を宿泊部会形式で開催した。講演会は、「サントリーの知的財産活動」と題して、サントリーホールディングス(株) 知的財産部長 竹本一志氏に食品業界における知財の役割およびサントリーの知財活動についてご講演頂いた。

併せて、サントリー九州熊本工場の見学会を開催し、震災の状況および製造装置の実物や映像、展示物を通じて、ビール製造工程について

ご説明頂いた。

(4) 第4回部会

「知財・特許部員のための知財契約書作成・チェックの要点」と題して、小林・弓削田法律事務所 所長 小林幸夫氏に、契約書チェックにおけるビジネス判断とリーガル判断の峻別、三現主義の実践および知財担当者のための情報収集の方法について事例を交えてご講演頂いた。

(5) 第5回部会

「海外特許調査－AIを巡る潮流と調査実務のトピックス」と題して、スマートワークス株式会社 代表 酒井美里氏に、海外特許庁の動きやAI応用分野、また海外企業での「AIと人間との責任分担」に関する議論や海外特許庁DBの情報を中心に、検索担当者の心構え、検索実務上でのポイントについてご講演頂いた。

(6) 化学関連東西合同幹事会

関西化学部会、関東化学第一部会及び当部会の各幹事から、各部会の運営、現状を紹介頂き、今後の部会運営の参考とした。

また石油資源開発(株) 由利原鉦場を見学し、油ガス田開発についての理解を深めた。

3. むすび

会員企業の関心が高い話題を取り上げること、ならびに部会の講演内容のバランスを取ることを基本方針として、部会の講演テーマ及び講師の検討を実施し、宿泊部会1回を含む計5回の部会を開催した。いずれの部会も想定を超える会員参加のもと、講演会での活発な質疑や懇親会での交流も含め、活動方針に沿った部会活動を無事終えることができた。

全部会とも盛会のうちに終えることができたのは、会員各位、講師の方々、施設等をご提供頂いた方々、および日本知的財産協会事務局など、多数の方々のご厚意とご協力によるものと感じております。この場を借りて、心より御礼を申し上げます。

関東化学第二・商社部会行事一覧

	開催日	参加者	部会形式／会場	演 題	講 師
1	5月11日（金）	56社 83名	【講演会】 北とびあ スカイホール	紛争事例から考える訴訟にしないための実務上の留意点	阿部・井窪・片山法律事務所 パートナー 弁護士 服部 誠氏
2	7月27日（金）	51社 92名	【講演会】 麒麟ビール(株) 横浜工場	マーケティングツールとしての知的財産 ～IPランドスケープから技術のブランド化まで～	金沢工業大学大学院 教授 Ph.D. 杉光 一成氏
3	10月12日（金） ～13日（土）	20社 26名	【講演会】 サントリーホールディングス(株) 九州熊本工場	サントリーの知的財産活動	サントリーホールディングス(株) MONOZUKURI本部 知的財産部長 竹本 一志氏
4	11月22日（木）	68社 113名	【講演会】 持田製薬(株) ルークホール	知財・特許部員のための 知財契約書作成・チェックの 要点	小林・弓削田法律事務所 所長 弁護士・弁理士 小林 幸夫氏
5	2019年 2月15日（金）	65社 84名	【講演会】 日比谷コンベン ションホール	海外特許調査 －AIを巡る潮流と調査実務 のトピックス	スマートワークス(株) 代表取締役 知的財産アナリスト 酒井 美里氏

5. 関西金属機械部会

1. 運営方針

当協会のスローガン「Creating IP Vision for the World」を念頭に、今年度の基本方針のうち、「グローバル活動の推進」「時代や制度の変化に対応した人材の育成」に基づき、当部会を下記方針で運営した。

【基本方針】：

企業の知財総合力の向上に資する知財情報の提供と、企業間交流の活性化

【具体的な内容】：

(1) グローバル戦略から日々の知財戦術までにわたる幅広い知財情報の提供による会員の知財力向上

(2) 業界・世代・性別を超えた人的交流の促進による企業間交流の活性化

2. 部会活動

上記の基本方針に従い、別表に示す通り5回の部会を開催し、その概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

兵庫県佐用町にある理化学研究所放射光科学研究センターの大型放射光施設であるSPRing-8

とSACLAを見学した。

その後、同センターの会議室にて本年度の部会運営方針と活動計画の説明及び講演を行った。講演は、中央総合法律事務所の弁護士加藤幸江氏に「知財紛争処理手段」と題してご講演頂いた。この講演では、紛争において立証をする上での留意点をご説明頂いた。例えばアンケートを提出しても設問が回答者の誤解を招くものとして却下された事例を紹介された。また特許法第102条による損害賠償を請求する際に注意すべき点について説明がなされた。

(2) 第2回部会

木津川市にあるオムロン株式会社京阪奈イノベーションセンターにて同センター内の実験室とS&Cプラザを見学した。

その後、同センターの協創エリアにて、株式会社ソシオネクスト知財法務統括部特許部課長の川口謙一氏に「事業統合に伴う知財業務の取組みについて」と題してご講演頂いた。この講演では、同社が元の2社のそれぞれの半導体部門が分割され、2015年3月1日に承継会社として統合され事業を開始されたときに知財関係ではどのようなことがなされたのかを紹介された。

大きくは、事業に関する契約の見直し、グローバル知財体制（内部統制としての知財体制）の構築、知財管理業務体制の構築で種々の問題や課題に取り組み、その内容が説明された。文化の違うメンバーから構成される知財部門をスタートする場合、早い段階から意見交換を行い、新しく構築する活動体制、管理業務などについて構想していくと良いと説明があった。

(3) 第3回部会

例年通り、関西三業種合同部会（電気機器、化学、金属機械）として、今年度は宇部市にて開催した。一日目は宇部興産株式会社にて、宇部地区工場群、興産大橋、ダブルストレーラーを見学した。ダブルストレーラーは、40トンの積載が可能な荷台が、2つ連結されたトレーラーであり、日本最長の私道である宇部興産専用道路でクリンカー等を輸送するために用いられている。また同社の総合案内施設「UBE-i-Plaza」にて、宇部地区工場群の全体像に関する解説を受けた。

見学した後ANAクラウンプラザホテル宇部に移動し、JIPA事務局長の志村氏から会務報告及び関東部会で取り上げられた「特許ライティングマニュアル」（改訂版）が紹介された。

引続き宇部興産株式会社知的財産部の島野氏（人材育成委員会委員、中国四国九州協議会幹事）より、配付資料「JIPA委員会等活動紹介」に基づいて紹介が行われた。

最後に宇部興産株式会社知的財産部部長の宮田博之氏から「宇部興産の知的財産活動について」と題してご講演頂いた。この講演では、同社のグループでは新規事業創出に向けて、それぞれの分野で膨大な知財情報に基づき、自社の客観的なポジションや保有特許の評価を行い、関係部門へ結果を提供していることを紹介された。また海外対応として、タイ拠点においてはJETROバンコクと協力してタイ知財局への技術説明会を開催することもあるとの紹介もあった。

二日目は、同ホテルにて特許庁総務部国際協力課地域協力第一班長の袴田知弘氏より、「ASEANの知財概況」と題してご講演頂いた。

この講演では、ASEANといっても各国での課題が異なるため、特許庁からはASEANとの多国間協力と、二国間協力の双方が用い、国間協力としては、ASEAN全体で取り組んでいる課題について、日ASEAN知的財産アクションプランを策定し、審査基準の策定等の支援をしている。一方、二国間協力では、審査官の派遣や、ミャンマーでの知財庁設立支援など、各国の実情に応じた支援を行っているのご説明頂いた。また2017年11月の日ASEAN首脳会議では、首脳レベルの働きかけの結果、議長声明に知的財産に関する文言が盛り込まれたとの紹介もあった。また聴講した会員企業に対しどの国のどの法律の何条を改正して欲しいといった、知財分野におけるASEAN向けの要望を政府に共有して欲しいとのお声掛けもあった。

(4) 第4回部会

例年通り大阪市にある住友クラブにて関西電気機器部会との二業種合同部会として開催した。

講演は東京大学政策ビジョン研究センターシニア・リサーチャーの小川紘一氏に「オープン&クローズの戦略思想を必要とする時代の到来=IoT時代の知財・法務をどう方向付けるか=」と題してご講演頂いた。講演は①100年に一度とも言うべき大規模な産業構造転換、②エコシステムの中で新たに生まれた知財マネジメントと契約マネジメント、③オープン化（技術伝播）からオープン&クローズ戦略へ、④IoT経済環境の価値形成とオープン&クローズ戦略という4つの観点から説明を受けた。特に③では技術が有体物からサイバー空間に移行する中、日本は欧米に遅れていると危惧が示された。

(5) 第5回部会

ヤマハ株式会社にて展示施設「イノベーションロード」を見学した。

その後、講演会場にて、新日鐵住金株式会社知的財産部戦略推進室長の矢田部英爾氏に、「技術情報秘密管理（事例も交えながら）」と題してご講演頂いた。この講演では、競合会社による高級鋼板の製造技術に関する営業秘密の不正

取得事件につき、競合会社や自社のOBに対してどのように対処したのか説明して頂いた。その上で技術情報を管理するにあたり、技術情報は大切なものと社員一人一人の自覚を促し、同情報を大切にする風土を形成することであると説明を受けた。最後に2017年4月に経産省から発行された、情報管理に関し「製造産業による重要技術の情報の適切な管理に関する基準となる考え方の指針（ガイドライン）」に関して概要と今後の見通しについて説明を受けた。

3. むすび

当部会は会員数が少ないにも係らず、部会や懇親会等に多くのメンバーに参加をして頂き、グローバル戦略から日々の知財戦略までにわたる幅広い知財情報の提供、会員相互の活発な交流や会員の知財力アップを図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびにJIPAの事務局の方々、更に部会に参加して下さった会員企業の方々に厚く御礼申し上げます。

関西金属機械部会行事一覧

部会	日程	場所（見学先）	参加数	演題／講師
第1回 【単独】	6月22日（金）	（兵庫・作用） 理化学研究所放射光科学 研究センター 〈SPRING-8, SACLA〉	21社 25名	『知財訴訟における立証の工夫～証拠収集に際しての留意点～』 弁護士業務法人中央総合法律事務所 弁護士 加藤 幸江氏
第2回 【単独】	9月14日（金）	（京都府・木津川） オムロン株式会社 〈京阪奈イノベーション センター〉	19社 22名	『事業統合に伴う知財業務の取り組みについて』 株式会社ソシオネクスト 知財法務統括部 特許部 課長 川口 謙一氏
第3回 【三業種 合同】	10月26日（金） ～27日（土）	（山口・宇部） 宇部興産株式会社 ANA クラウンプラザ ホテル宇部	68社 80名	①『宇部興産の知的財産活動について』 宇部興産株式会社 知的財産部 部長 宮田 博之氏 ②『ASEANの知財概況』 特許庁 総務部地域国際協力課地域協力第一班 班長 袴田 知弘氏
第4回 【二業種 合同】	12月7日（金）	（大阪） 住友クラブ	60社 66名	『オープン＆クローズの戦略思想を必要とする時代の到来＝IoT時代の知財・法務をどう方向付けるか＝』 東京大学 政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャー 小川 紘一氏
第5回 【単独】	2月22日（金） ～23日（土）	（静岡・浜松） ヤマハ株式会社 〈イノベーションロード〉	20社 29名	『技術情報秘密管理（事例も交えながら）』 新日鐵住金株式会社 知的財産部 戦略推進室 室長 矢田部 英爾氏

6. 関西電気機器部会

1. 活動方針

本年度の活動方針を「第4次産業革命を勝ち抜くための新時代の知財活動に向けて」とし、具体的には、「部会を通じて、パラダイムシフトの時代を勝ち抜くための、多様なスキルの習得・人材の育成を図る。」こととした。

2. 活動テーマ

- (1) IoT・AI・ビッグデータの時代に必要な知的財産に関する知識と知恵と戦略の習得
- (2) 協業・M&Aを通じた技術・知財の獲得
- (3) 異業種との人的交流

3. 活動内容

(1) 第1回部会

（株）アシックス本社にて、法務・コンプライアンス統括部 知的財産部 部長の齊藤浩二氏にご挨拶いただき、その後、デロイトトーマツ

ファイナンシャルアドバイザー合同会社 執行役員 大阪オフィス統括パートナー 中道規雄氏による「M&Aと知財デューデリジェンスの実務～初めてのM&Aもこれだけ知っておけば怖くない～」と題するご講演をいただいた。この講演では、社外の技術や知財の獲得を目的として増加しているM&Aにおいて、M&A全体プロセスの中での知財デューデリジェンスの目的、具体的な実施事項、アウトプットを体系的にわかりやすく解説いただいた。

その後、アシックススポーツミュージアムを見学した。

(2) 第2回部会

関東電気機器部会との合同の宿泊部会として、YKKセンターパーク（富山）を見学した後、YKK(株) 法務・知的財産部 知的財産グループ長 林隆典氏に「YKK知財活動について」と題するご講演をいただいた。講演では、YKKグループの概要と知財組織、知財活動について紹介いただいた。

(3) 第3回部会

関西金属機械部会、関西化学部会との三業種合同の宿泊部会として、1日目は、宇部興産(株)で、宇部地区工場群、宇部興産専用道路、興産大橋、ダブルストレーラーを見学し、また、総合案内施設「UBE-i-Plaza」にて、宇部興産(株)の事業、工場、商品等の説明を受けた。

その後、ANAクラウンプラザホテル宇部に場所を移して、日本知的財産協会 事務局長の志村勇氏から会務報告、宇部興産(株) 知的財産部 主席部員 島野哲郎氏（日本知的財産協会 人材育成委員会委員、中国四国九州協議会幹事）から人材育成委員会、及び中国四国九州協議会の活動報告がされた。

それに続き、宇部興産(株) 知的財産部 部長 宮田博之氏に「宇部興産の知的財産活動について」と題するご講演をいただいた。講演では、化学系素材メーカーを取り巻く環境、宇部興産グループの概要、事業と知的財産活動、新規事業創出に向けての知財部の活動と海外対応、知財教育などについて紹介いただいた。

2日目は、特許庁 総務部 国際協力課地域協力第一班長 袴田知弘氏に「ASEANの知財概況」と題するご講演をいただいた。講演では、比較的先進的な知的財産法が整備されているシンガポールから、知的財産法自体が存在しない国まで、幅広いレベル差があるASEAN各国に対して特許庁が行っている多国間協力、及び二国間協力の取組みを紹介いただき、ASEAN各国への知財制度の整備などを求める際は、官民挙げての働き掛けが有効であるとの説明をいただいた。

(4) 第4回部会

関西金属機械部会との二業種合同部会として、住友クラブにて、東京大学 政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャー 小川紘一氏による「オープン&クローズの戦略思想を必要とする時代の到来～IoT時代の知財・法務をどう方向付けるか～」と題するご講演をいただいた。この講演では、100年に一度とも言うべき大規模な産業構造転換の中での知財マネジメントと契約マネジメントの重要性、IoT環境での価値形成とオープン&クローズ戦略などについて解説いただいた。

(5) 第5回部会

柏原市立市民プラザにて、ナブテスコ(株) 理事 技術本部 知的財産部長 兼 ナブテスコ R&Dセンター長 菊地修氏による「ナブテスコの知的財産経営戦略におけるIPランドスケープの実践」と題するご講演をいただいた。この講演では、ナブテスコの知財経営戦略を紹介いただくと共に、社内の知財活動を、経営者型、経営コンサル型、知財管理者型の3つの切り口に分けて説明いただいた。

その後、(株)河内ワインにて、ワイナリー見学を行うとともに河内ワインの歴史について学んだ。

4. むすび

本年度の活動方針とした「新時代の知財活動」に対して、従来からの管理型知財業務を越えて取り組むべき業務の方向性を共有することができた。

また、講演会終了後の懇親会の出席率も高く、

会員相互の情報交換や、人脈形成の場を提供することができた。

最後に、部会の運営にご協力いただきました

講師、見学先の皆様、日本知的財産協会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

関西電気機器部会行事一覧

部 会	開催日・場所	出席数	内 容
第1回 (単独：半日) 関西電気機器部会	2018年6月8日(金) 見学：アシックススポーツミュージアム 講演：アシックス本社	48社 電気：53名 他：8名 (計61名)	1. 見学 アシックススポーツミュージアム 2. 部会 (2018年度運営方針、活動計画など) 3. 講演会 デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 執行役員 大阪オフィス統括パートナー 中道 規雄氏 「M&Aと知財デューデリジェンスの実務～初めてのM&Aもこれだけ知っておけば怖くない～」 4. 懇親会 アリソンホテル神戸
第2回 (合同：宿泊) 東西合同電気機器部会	2018年9月7日(金) ～8日(土) 見学：YKKセンターパーク(富山) 講演：同上 宿泊：延対寺荘(宇奈月温泉)	64社 関西：25名 関東：48名 他：2名 (計75名)	1. 見学 YKKセンターパーク(富山) 2. 講演会 YKK株式会社 法務・知的財産部 知的財産グループ長 林 隆典氏 「YKK知財活動について」 3. 懇親会 延対寺荘
第3回 (合同：宿泊) 関西三業種合同部会(電気機器・化学・金属機械)	2018年10月26日(金) ～27日(土) 見学：宇部興産 講演：ANAクラウンプラザホテル宇部 宿泊：同上	67社 電気：27名 金機：18名 化学：32名 建設：1名 他：7名 (計85名)	1. 見学 宇部興産 2. 関西部会(会務報告) 3. 講演会 (1日目) 宇部興産株式会社 知的財産部 部長 宮田 博之氏 「宇部興産株式会社の知的財産活動について」 (2日目) 特許庁 総務部 国際協力課 地域協力第一班長 袴田 知弘氏 「ASEANの知財概況」 4. 懇親会 ANAクラウンプラザホテル宇部
第4回 (合同：半日) 関西二業種合同部会(電気機器・金属機械)	2018年12月7日(金) 講演：住友クラブ	60社 電気：37名 金機：29名 (計66名)	1. 講演会 東京大学 政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャー 小川 紘一氏 「オープン&クローズの戦略思想を必要とする時代の到来～IoT時代の知財・法務をどう方向付けるか～」 2. 懇親会 住友クラブ
第5回 (単独：半日) 関西電気機器部会	2019年2月1日(金) 見学：河内ワイン 講演：柏原市立市民プラザ	29社 電気：38名 他：2名 (計40名)	1. 見学 河内ワイン 2. 部会 (2018年度活動報告など) 3. 講演会 ナブテスコ株式会社 理事 技術本部 知的財産部長 兼 ナブテスコR&Dセンター長 菊地 修氏 「ナブテスコの知財経営戦略におけるIPランドスケープの実践」 4. 懇親会 河内ワイン

7. 関西化学部会

1. 運営方針

当協会の基本方針に従い、下記方針で運営した。

(1) グローバルな知財活動に役立つ情報を提供する。

(2) 知財実務を支える専門情報及び人材育成の為の情報を提供する。

(3) 世代を超えた会員相互の情報交換と親睦を深める交流の場を提供する。

2. 部会活動

上記の運営方針に従い、別表に示す通り4回の部会を開催した。その概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

JIPA関西事務所において開催した。本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、King & Wood Mallesonsのパートナー弁護士・弁理士 秦玉公氏に、「中国化学分野の特許侵害訴訟や無効審判における最新動向及び留意事項」と題してご講演を頂いた。この講演では、①近年の化学分野における訴訟状況として、訴訟件数は上昇傾向にあり、その理由としては、出願件数自体の増加、中産階級の拡大に伴う市場競争の激化、裁判所が認定する損害賠償額の増加等の理由があると考えられること。また、日本の化学系メーカーが原告となって侵害訴訟を提起する事例も、ここ2～3年で増加してきていること。無効審判事件における無効率は、特許権は40%程度、実用新案権は50%程度であること、などの説明を頂いた。また、②証拠の調査収集及び公証付き購入について、侵害被疑物品の公証付き購入を行うことが望ましく、侵害被疑物品以外に収集すべき証拠としては、侵害行為をしている企業・当該企業の担当者・取引のフロー等に関するものが挙げられるとの説明を頂いた。次に、③無効審判における実験データの補足提出について、審査指南の改正に伴い、実験データの補足提出が認められることもあり、補足提出に挑戦する価値はあると考えるこ

とについて説明頂き、この点に関し、以下の審決例を紹介頂いた。

1. 特許再審委員会34432号無効審決（特許権者：ノバルティスアーゲー）

当該事件では、特許権者はデータを補足提出したものの、進歩性が否定された。

2. (2017)京行終1806号（特許権者：ギリアードサイエンシーズ、インコーポレイテッド）

当該事件では、第二審裁判所が補足提出された実験データを受け入れ、第一審判決と無効審決を取り消した。

(2) 第2回部会

例年通り、関西三業種合同部会（金属機械、電機機器、化学）として開催し、初日は宇部興産株式会社宇部本社を見学した。その後、ANAクラウンプラザホテル宇部にて部会及び1件目の講演を行った後、懇親会を開催した。翌日は同会場にて、2件目の講演を行った。

初日は「宇部興産の知的財産活動について」と題して、宇部興産株式会社 知的財産部 部長 宮田博之氏にご講演を頂いた。①宇部興産グループの事業と知的財産活動として、事業に活用できる特許を重視しており、事業ごとの特性を考慮し、保有特許の見直しを適宜行っていること。その結果、2014年には350件を超えていた新規国内登録件数が、2014年から2017年の間で新規国内登録件数が30%程度減少したこと。新規登録特許数の減少は、事業の縮小によるものではなく、適正化の結果であること。出願の内容やタイミングの決定に際しては、常に事業の出口を意識し、知的財産部門と、事業部門・研究開発部門とで密にコミュニケーションを取り、判断していること、などについてお話を頂いた。また、②宇部興産グループの新規事業創出活動について今後志向する4つの事業ドメインとして、環境・エネルギー、モビリティ、建築・インフラ、ヘルスケアがあり、新規事業創出に向けて、それぞれの分野で膨大な知財情報に基づき、自社の客観的なポジションや保有特許の評価を行い、関係部門へ結果を提供して

いること、などについてご講演頂いた。

2日目は、特許庁 総務部 国際協力課 地域協力第一班長 袴田知弘氏に「ASEANの知財概況」と題して、①対ASEAN知財政策の考え方について、各国での異なる課題に対応するため、ASEANとの多国間協力と、二国間協力の双方が用いられていること。多国間協力としては、ASEAN全体で取り組んでいる課題について、日ASEAN知的財産アクションプランを策定し、審査基準の策定等の支援をしていること。一方、二国間協力では、審査官の派遣や、ミャンマーでの知財庁設立支援など、各国の実情に応じた支援を行っていることなどについてご説明頂いた。また、②多国間関係について、首脳レベルから事務レベルに至るまで、様々な階層を通じて各国への働きかけを行っていること。首脳レベルの働きかけの結果、2017年11月の日ASEAN首脳会議では、議長声明に知的財産に関する文言が盛り込まれたこと。多国間関係の施策のひとつとして、日本国特許庁がASEAN各国から審査基準の策定や改訂に関与する人材を招聘し、研修を行っていること。また、国際条約への加盟の支援や、模倣品対策として取り締まり機関に対する研修等も実施していること、などについて説明を頂いた。さらに、③二国間関係について、ASEAN6の全ての国（シンガポール・フィリピン・インドネシア・タイ・マレーシア・ベトナム）との間で特許審査ハイウェイを実施中であることや、公報データの交換について合意に至っていることを説明頂き、カンボジア・ラオスとはCPG（特許の付与円滑化に関する協力）、ブルネイとはPPH+が既に開始されており、これにより特許審査体制やリソースが不十分な国においても、日本の審査結果を活用して迅速な権利設定が可能となっていることなどについてご講演を頂いた。

(3) 第3回部会

吹田市のアサヒビール吹田工場にて開催した。本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、「アサヒグループの歴史と知財管理」と題し、アサヒグループホールディングス株式会

社 研究開発部門 知財戦略室 室長 酒井範夫氏にご講演を頂いた。①知財教育について、全研究者を対象とした知財研修を実施しており、研究者が自身のステージに応じて適切な研修を受講できるよう、知財部門が年間計画を立案し、研修を行っていること。知財担当者が講師を務めており、研修内容は難易度等に応じて7つのコースに分けられていることや、こうした研修が、先行技術調査等の責任の所在を明確にすることにも役立っていることについてご説明頂いた。また、②発明奨励制度について、グループ内の報奨金管理を一元化するために、国内グループ会社の職務発明規定を統一したこと。また、新たにグループ入りした会社の制度も順次統一し、これにより研究者の不満解消・異動時の制度説明や実績評価調査の簡略化、といった効果が生まれていること、などについてご講演頂いた。

講演会の終了後、吹田工場の見学を行い、新大阪ワシントンプラザホテルに移動し、懇親会を行った。

(4) 第4回部会

本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所に赴き、研究開発センター内ホールにて会務報告を行った後、「Hondaの知財活動」と題し、本田技研工業株式会社 知的財産・標準化統括部二輪・パワープロダクツ事業知的財産部長 遠藤嘉浩氏にご講演を頂いた。①Honda知財部門の特徴として、一般的な権利化やライセンス業務だけでなく、グローバルに知財組織が連携し、比較的広範囲にわたる知財業務を推進していること。例えば、各国における不正商品への対応経験が豊富であり、また、海外企業に対する生産ライセンスの付与に関する業務経験も多岐にわたり、これに伴う各国での税務的な課題への対応についても経験の蓄積があること、についてご説明頂いた。加えて、自動運転では必須となる通信技術や標準化の重要性を考慮し、標準化業務を知財業務として位置付けており、自動車業界においても避けて通れなくなった標準化戦略を推進する体制を整えるため、「知的財産」

と「標準化」を一体化した「知的財産・標準化統括部」の発足に至っていること、などについて説明頂いた。また、②新規アイデアの創出・権利化について、従来は、開発目標を達成する過程で見出された発明を出願、権利化していたが、近年の自動車業界における通信技術の重要性の高まりや、IT系企業による活発な特許出願の状況を踏まえ、従来とは異なる視点から新たなアイデアを創出するために社内で「コトづくり「創出会」」を立ち上げ、「創出会」では、約10年後の価値観やライフスタイルの変化を予測・共有し、将来どのようなニーズが存在するかについて意見を出し合い、新たなアイデアを生み出そうとしており、エンジニアのみならず、

事業企画部門の担当者等も部門の垣根を超えて参加していることなどについてご講演頂いた。ご講演の後、完成車工場及びエンジン工場の見学を行い、その後、ホテルグリーンパーク鈴鹿において懇親会を行った。

3. むすび

知財部門が小規模な会員が少なくないにもかかわらず、部会やその後の懇親会等に多くのメンバーに参加いただき、会員相互の活発な交流を図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびに日本知的財産協会の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

関西化学部会行事一覧

部会	日程・場所	参加者数	内 容
第1回	2018年6月20日(水) 日本知的財産協会 関西事務所	54社 63名	講演「中国化学分野の特許侵害訴訟や無効審判における最新動向及び留意事項」 講師：秦 玉公氏 (King & Wood Mallesons パートナー弁護士)
第2回 三業種 合同部会	2018年10月26日(金) ～27日(土) (山口/宇部) 宇部興産 宇部本社	80社 86名	講演1「宇部興産の知的財産活動について」 ～戦略的知財活動に向けた取り組み～ 講師：宮田 博之氏 (宇部興産株式会社 知的財産部 部長) 講演2「ASEANの知財概況」 講師：袴田 知弘氏 (特許庁 総務部 国際協力課 地域協力第一班長)
第3回	2018年11月30日(金) (大阪/吹田) アサヒビール吹田工場	34社 40名	講演「アサヒグループの歴史と知財管理」 講師：酒井 範夫氏 (アサヒグループホールディングス株式会社 研究開発部門 知財戦略室 室長)
第4回	2019年2月8日(金) (三重) 本田技研工業 鈴鹿製作所	25社 29名	講演「Hondaの知財活動」 講師：遠藤 嘉浩氏 (本田技研工業株式会社 知的財産・標準化統括部 二輪・パワープロダクツ事業知的財産部長)

8. 建設部会

1. 運営方針

下記方針に基づき今年度の部会運営を行った。

(1) 部会運営方針

「会員の啓発および会員相互の交流と親睦」を基本とし、参加者の能動的かつ積極的な活動

参加を進めることで部会活動をさらに活性化し、参加者個人の成長と会員企業の発展に資する有益な活動を目指す。

(2) 部会年間活動方針

- 1) 部会活動および研究会活動への能動的な参加を推進し、さらなる活性化を図る。
- 2) 建設業の外にも広く目を向け、知的財産

の課題を抽出し、参加者各人の研鑽とモチベーション向上を図る。

2. 部会活動について

今年度は、「スポーツと知財」を年間テーマとして、部会の年間計画を立案した。2年後に東京オリンピックを控えて、関連施設の工事が始まっていることと、ルールの下に技術開発をするスポーツ関連分野が、様々な法規制の下技術開発する建設業との共通点があると考えてのことである。

以下に部会各回の概要を記載するとともに、開催記録として別表を末尾に添付する。

(1) 第1回部会

今年度の部会活動方針、活動計画の説明と昨年度の会計報告が行われ、全会一致で承認された。また、(株)技研製作所、JR東日本コンサルタンツ(株)の入会が報告された。これにより、建設部会の会員数は48社となった。

研究会活動については、「建設技術と異業種技術の融合と知財部門の役割」というテーマで、7名のメンバーにより特許庁第一審査部（自然資源・住環境）との合同勉強会という形で実施されることの説明がなされた。

建設部会40周年記念部会準備委員会については、8名のメンバーと幹事団にて活動を行うことの説明があった。

次回部会開催がされる(株)シマノの出願状況について説明がされた。

a) 講演

『商標の「類似」と「混同のおそれ』』と題して、大島・西村・宮永商標特許事務所弁理士の西村雅子氏より、実際のスポーツ関連メーカー等の登録事例や裁判例などを交えて講演をいただいた。

講演後は、事例問題について、参加者が6人1組となってディスカッションを行い、その成果を発表し合った。講演の最後には活発な質疑応答が行われた

(2) 第2回部会〈異業種交流日帰り部会〉

大阪府堺市の地場産業である自転車部品メーカー(株)シマノが創設した財団が1992年4月に開

館した日本唯一の自転車博物館「自転車博物館 サイクルセンター」にて開催した。自転車をスポーツ用具の1つと捉えたことと、驚異的な数の出願をしている企業の発明発掘について講演いただく趣旨である。来年度役員、幹事公募の説明がされた。次回宿泊部会の説明がされた。

a) 博物館見学

サイクルセンターの長谷部氏のご案内により展示物の見学を行った。

b) 講演

(株)シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部技術開発部技術戦略チーム次長の小松厚志氏より「当社の知財戦略の現状と課題」と題した講演をいただいた。

発明発掘から国際戦略まで、多岐にわたった講演は、非常に興味深く、非常に示唆に富んだ内容であった。

(3) 第3回部会〈異業種交流宿泊部会〉

スポーツに欠かせない健康飲料という位置づけと、ロングセラー商品を守り続けている(株)ヤクルト本社の知財戦略を伺うべく、1日目の訪問先に岩手ヤクルト工場を選択した。2日目は、先人の発明から、現代の発明発掘を考えるべく、4件の訪問先を選択した。

1日目

a) 岩手ヤクルト工場見学

岩手ヤクルト工場やヤクルトの歴史等についての説明、ビデオ視聴のあと、同工場の伊東氏の説明で、工場見学をした。

b) 講演

(株)ヤクルト本社開発部知的財産課主事補 浅井健士氏より「ヤクルト本社における模倣品対策の実例について」と題した講演をいただいた。

ヤクルトのようなロングセラー商品は、特許や容器の意匠登録は、権利が満了している。その際の商品保護は、商標で行うとのことであった。

模倣品に対しては、警告書送付や訴訟により、安易な金銭解決・ネゴシエーションはせず、毅然とした対応をし、不正行為は徹底的に追及するとの姿勢で行っている旨の説明を頂いた。商

標についての対応方針として、極めて示唆に富んだ内容であり、講演終了後も所定時間まで活発な質疑応答が行われた。

2日目

「先人の発明に触れる」というテーマで、4か所の見学を行った。

a) みちのく民俗村（岩手県北上市）

みちのく民俗村は、北上川流域の茅葺民家を移築復元した東北有数の野外博物館である。建設の原点である住宅について、様々な工夫を見学できた。同じ南部曲り屋でも、囲炉裏の位置からして1軒1軒異なることを見、1品受注生産の原点をも見た気がした。

b) 岩谷堂タンス製作所（岩手県奥州市）

工場では、伝統工芸士の菅野氏の説明により、岩谷堂タンスの製作工程を見学した。ショールームでは、岩谷堂タンス製作所13代目の三品氏より、岩谷堂箆笥の歴史、仙台箆笥との違い、彫金や漆塗りなどの岩谷堂箆笥の特徴などについて説明頂いた。

高価な伝統工芸品を、品質を落とさずに普及しやすい価格とする工夫等をお聞きし、会員企業にとっては示唆に富んだ内容となった。

c) 岩手銀行赤レンガ館（岩手県盛岡市）

岩手銀行赤レンガ館は、1911年に盛岡銀行の本店行舎として落成した建造物。設計者は、東京駅の設計者として知られる辰野金吾。近年まで銀行業務を行っていたとのことで、長寿命建築を直に学ぶことができた。

d) 岩鑄鉄器館（岩手県盛岡市）

岩鑄鉄器館は、南部鉄器の展示ギャラリーをはじめ、実際の作業工程を見学できるテーマパーク型工場。

展示ギャラリーでは、巨大南部鉄瓶、盛岡の代表的な祭りの様子、様々な南部鉄器の作品などの展示品を見学した。

その後、南部鉄器の作り方について、デザインから、鑄型の製作、鑄込み、型出し、着色などの各工程について、説明頂きながら見学した。型出しの工程や着色の工程については実際に作業を見ることができた。

現代の生活様式合わせるために、本来錆びやすい鉄器にホーロー仕上げを施す等の工夫をしていたり、IH対応のものも開発したりしている。伝統工芸品に安住することなく、工夫を重ねている姿勢を学ぶことができた。

(4) 第4回部会（40周年記念部会）

ホテル椿山荘東京にて、OB・OGも招待しての開催となった。特許庁審査第一部長 澤井智毅氏と日本知的財産協会 久慈専務理事からのご祝辞を頂き、開会された。また、2019年度の業種担当役員・幹事候補の紹介が行われ、建設部会から推薦する承認が得られた。

a) 座談会

「建設部会OB有志による建設部会設立時のお話」と題して、鹿島建設OB 小野泰正氏、熊谷組OB 青野孝行氏、JIPA 総務グループ 渡辺憲一郎氏による座談会が、JIPA 櫻井克己監事をコーディネーターとして行われた。

1979年に金属機械部会から独立したこと、その後、公共工事と特許権の問題や紛争等に取り組んでこられたことが話された。今後も建設部会を通じて横のつながりを持ってほしいとの話がされた。

b)：講演1

「現役時代から指導者へ」と題して3大会五輪マラソン日本代表の宗茂氏により行われた。

ご自身の様々な経験が指導者となってから生きていること、自分で考えて努力することが大事であること等、企業人にとっても役に立つお話を聞くことができた。

c) 講演2

「コンテンツ制作の現場から～映画、マンガ、アニメの裏側」と題して、ヴィジュアルリストの手塚真氏により行われた。

映像を制作する職業を総称するに呼び方がなかったのが、ヴィジュアルリストと名乗っている。コンテンツ制作はケースバイケースで、非常に複雑になる。しかし、結局は作者がいないと成り立たないものである。以上のようなお話を聞き、建設業界も増加傾向にある映像等の撮影、使用につき、示唆のあるお話であった。

d) 講演3

「漫画『陰陽師』続編『陰陽師 玉手匣』の制作現場から～陰陽五行思想の空間認識を交えて」と題して、漫画家 岡野玲子氏により行われた。

阿倍晴明が建築に携わっていたお話や、平安京の条理設計が古代エジプト研究に関する書籍に書かれているものと一致する等のお話をいただいた。平安時代の人々が、高度な都市計画を考えていたことは会員企業にとって、大変示唆に富んだ話であった。

手塚氏と岡野氏のご講演の後、活発な質疑応答がされた。

(5) 第5回部会

鹿島建設(株)にて開催。今年度の部会活動を総括して報告するとともに、次年度の業種担当役員より2019年度の活動計画(案)の説明を受けた。

a) 特許庁による行政報告

通例の特許庁による行政報告を審査第一部上席審査長の大森伸一氏に、「知財行政の最近の動向」と題してご報告頂いた。それに加え、近々に予定されている意匠法制度改定について、審査第一部意匠課主任上席審査官の清野貴雄氏より、「産業競争力の強化に資する意匠制度の見直し」と題してご説明して頂いた。

また、特許庁審査第一部への建設部会会員企業からの質問を事前に取り、お送りしていた。その回答について清野貴雄氏(前出)と特許庁審査第一部審査官補の田島拳士郎氏より丁寧にご説明いただいた。

b) 研究会成果発表

今年度の研究会は後述の通り活動した。その成果を建設部会メンバー7名(特許庁メンバー13名)を代表して、リーダーの酒井英二氏(三井住友建設)と、大熊眞市氏(フジタ)及び中井祐氏(大建工業)より発表してもらった。

3. 各種活動

(1) 40周年記念部会準備委員会

2017年度第5回部会で委員を公募し、8人の応募者により結成した。4/6の第1回から9回

開催した。4人の幹事団と共に内容の企画から始め、企画が固まってきたら、それぞれの企画の担当を決めて話を詰めてきた。結果として、素晴らしい内容となった。当日の係も準備委員の中で担当し、大成功のうちに40周年記念部会を終えた。

(2) 研究会

2017年度第5回部会で委員を公募し、7人の応募者により結成した。特許庁審査第一部(自然資源・住環境)との合同研究会とし、テーマは「建設技術と異業種技術の融合と知財部門の役割」とし、合同の研究会を「次世代建設融合技術研究会」(建融研)と称する。建融研の建設部会側から特許庁技術動向調査委員会に委員を派遣した。JIPA専門委員会へのヒアリングも行い、5/7の第1回より、7名での個別のWG会合を除き、通算で14回(建融研はこの内8回)開催した。その成果は第5回部会での発表のほか、2/14のJIPAシンポジウムにおいて、ポスターセッションでも発表された。

(3) パブリックコメントへの対応

特許庁より8/7に「意匠制度の見直しの検討課題に対する提案募集について」が出され、この中の「(2) 空間デザインの保護について」で、建築物の外観と内装を保護することについて言及されていた。このため、JIPAから総括して意見書をまとめるにあたり、建設部会としての意見を打診された。建設部会会員各社にアンケートした結果、会員ごとに様々な意見があった。そこで、中心になっている意匠委員会には、現状と、各社の様々な意見を伝え、意見書には、慎重な対応を望む旨、反映していただいた。

(4) 機関紙への寄稿

「季刊じば」の2019Winter号に建設部会の紹介文を寄稿した。

4. むすび

当部会の各行事や各種活動に際しては、都度ご支援くださったJIPA事務局の皆様、並びに、異業種交流部会の見学先受入れや知財講演をご快諾いただいた会員企業の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに部会を運営することがで

きた。取分け、本年度は40周年記念準備委員と研究会委員の皆さんと、各委員を派遣くださった会員企業の皆さんのご尽力、ご協力に深く感謝する。建設部会会員企業各社知財部の社内プ

レゼンスは、今年度の活動で学んだことを通じ、会員企業各社の実践により、今後、向上していくものと信じる。

別表 2018年度建設部会の開催記録

	開催日、場所	活動内容
第1回	5月18日(金) 東京グランド ホテル	講演：商標の「類似」と「混同のおそれ」 講師：大島・西村・宮永商標特許事務所 弁理士 西村 雅子氏 ※実績…42社62名
第2回	7月13日(金) 自転車博物館サイクルセンター	講演：当社の知財戦略の現状と課題 講師：(株)シマノ 小松 厚志氏 ※実績…42社49名
第3回	10月4日(木) ～5日(金) (株)岩手ヤクルト工場	講演：ヤクルト本社における模倣品対策の実例について 講師：(株)ヤクルト本社 浅井 健士氏 [製造現場見学] 岩谷堂タンス, 岩鑄(南部鉄器)他 ※実績…34社35名
第4回	11月30日(金) ホテル椿山荘東京	建設部会創立40周年記念部会 ① 座談会「建設部会OB有志による建設部会設立時のお話」 ② 現役時代から指導者へ 3大会五輪マラソン日本代表 宗 茂氏 ③ コンテンツ制作の現場から～映画, マンガ, アニメの裏側 ヴィジュアルリスト 手塚 真氏 ④ 漫画『陰陽師』続編『陰陽師 玉手匣』の制作現場から ～陰陽五行思想の空間認識を交えて 漫画家 岡野 玲子氏 ※実績…45社90名
第5回	2月8日(金) 鹿島建設(株) 鹿島赤坂別館	報告①：知財行政の最近の動向 報告者：特許庁審査第一部自然資源 上席審査長 大森 伸一氏 報告②：産業競争力の強化に資する意匠制度の見直し 報告者：特許庁審査第一部意匠課意匠制度企画室 主任上席審査官(意匠制度企画担当) 清野 貴雄氏 報告③「次世代建設融合技術研究会-建設産業の未来を考える-」 報告者：三井住友建設 酒井 英二氏(研究会リーダー)他 ※実績…40社76名